

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390500102		
法人名	株式会社 プラス		
事業所名	グループホームあかり中村苑 まんりょうの実		
所在地	名古屋市中村区烏森町6丁目91番地		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和6年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvosvoCd=2390500102-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和5年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者が安心して暮らしていけるように気持ちに寄り添い、その人らしさを引き出せるように職員間で、些細な事でも情報共有して支援しています。
 あかりの理念「あなたの笑顔がみたいから」に基づき歌声や笑い声が常に響いている家庭的な施設です。コロナ禍ですがご利用者様とご家族様の関係が途切れることがないように予約制にて面会を行っています。またご家族様と信頼関係を深める為に全職員が困っているや求めている事を聞いて対応している。
 以前入居されていたご家族様からの口コミなどで入居希望の方が来られることがある

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所
 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。
 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらい 3. 家族の1/3くらい 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入社はじめに、あかりの理念を伝え、地域密着サービスに対して施設の役割を説明し、玄関・事務所の掲示しています。基本理念を基に認知症介護理念を職員で作り全職員共有しています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より地域の方から声をかけて頂き、運営推進会議の際に地域行事等を教えて頂けます。あかりの夏祭りには近所の方や老人会・民生委員・町内会長さんにも来て頂けます		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方が気楽に相談等に来て頂けるように事務所に相談窓口を設けて、どなたにも笑顔で対応しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、コロナ禍で書面での報告をして、ご意見や質問、感想を頂いてます。町内会長さん、民生委員、いきいき支援センター担当者からご意見や要望等をサービスの向上に努めています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中村区役所生活保護係担当者やいきいき支援センター担当者と連携を図りながら、利用者の受け入れを行っています。日頃から連絡・相談・確認を行うことで地域に根差した施設作りに努めています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束等の排除に関する研修を行い、年に4回身体拘束委員会を開催して勉強会を実施しています 身体拘束を行うリスクや身体拘束を必要としないケアをチームで知恵を出し合いケアの方法の改善に取り組んでいます		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回身体拘束等の排除に関する研修を行い、年に4回身体拘束委員会を開催しています。身体拘束を必要としないケアをチームで知恵を出し合いケアの方法の改善に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に2回虐待防止に関する研修、年に4回虐待防止委員会を開催して勉強会を実施しています。言葉遣いや態度等、職員同志で注意し合うようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	権利擁護に関する勉強会を実施し、実際に利用されている方に説明したり、資料を基に学ぶ機会を作り理解を求めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約時に入居者様や家族様の不安が軽減できるよう、ケアに関する考え方や取り組み、利用料金等を同意して頂けるように丁寧に説明しています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ会議を行い、意見及び提案を聞いています、また申し送りノートや直接管理者に伝えることもあります。意見など言いやすい環境作りに努めています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるように支援し個別に話を聞き職員同士に人間関係を把握し働きやすい環境作りを目指しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社初日には研修を実施しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いきいき支援センターとの交流でネットワーク作りや相互訪問等の活動を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握し本人さまの要望を傾聴し、生活のニーズを把握することで入居者様が不安にならないよう向き合いながら安心して頂ける関係作りに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を通して、ご家族様の今までの苦労や不安な気持ちをゆっくりと傾聴し、理解できるように心がけています。信頼関係が深まるよう些細なことでも電話や面会時に対応させて頂いてます		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や本人様からの相談に対してニーズの把握をするるとともに必要な支援の提案を行っています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係が築けるよう、一緒に過ごす時間を大切に、共に支え合い穏やかに生活ができる関係作りをしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月状態を記載した写真を付けてお便りを送付しています。面会された際は日頃の様子をお話して安心して頂ける関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前面談時に話し合い、大切にしてきた馴染みの場所や友人等の継続的な交流ができるように相談しながら対応しています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない方には、特に職員が関りを多く持ち利用者様同士で関りが持てる様に職員が間に入り話の橋渡し役をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や事情で他の施設に行かれた方に対しても相談を受けてます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中から、本人様の意向をお聞きし、できることがあれば実行している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時に生活歴、これまでの暮らしや地域との関り等の情報を得て把握しています。ご家族様からたくさんの情報を得ることで入居者様を理解し、その人らしい生活が出来るよう支援しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムをつかみ、ご本人様がやりたい時に出来る事を行ってもらっている。認知症状が進行しても残存機能ができるだけ維持されるようにこえかけをして行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様、計画作成担当者を中心に意見を出し合い介護計画を作成しています。月に一度スタッフとカンファレンスを行い意見交換し介護計画を作成しスタッフ全員が把握できるように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や介護記録、申し送りノートに普段と異なるや気づきを記載して職員間で情報共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の日々変化する状況に応じて臨機応変に対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居様が安心して暮らしが続けられるよう、いきいき支援センター担当者や民生委員の方、地域役員の方と連携を図り意見交換し情報を共有することで支援につなげてます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医により月2回の訪問診療を受けています。専門受診が必要と判断されればご家族様に説明して基本的に受診介助はご家族様にお願いしているが対応できない場合は職員が対応している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の訪問看護により身体観察があります。入居様の健康管理をして頂き指示を受けている併設の小規模多機能型居宅介護事業所にも看護婦が勤務している為急変時等連携を図れる体制にあります		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は緊急の場合が多いので同行することが多く、医師や看護婦への対応を行っている。また退院時は病院の相談員と連携をとりながら退院後受け入れができる体制を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、または必要と思われる方に重度化した場合や終末期になった場合についてご家族様と話し合いをし、安心して納得した最期がむかえられるよう取り組んでいます		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命センターで救急救命講習を受講した者が緊急対応マニュアルを元に勉強会を行い周知徹底を図っています。施設内にAEDの設置もしており職員に使用方法の説明をしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回日勤、夜勤帯を設定で避難訓練を実施している。施設が災害時の避難場所となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に誇りやプライバシーに配慮した言葉がけをするよう気を付けています。入社時に利用者様のプライバシーについて守秘義務を徹底するよう説明している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の性格等を知り、言葉の裏にかくされている事も感じとれるように、職員は出来る限りの時間を利用者様と過ごすようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の性格等を知り、言葉の裏にかくされている事も感じとれるように、職員は出来る限りの時間を利用者様と過ごすようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意見を無視したケアを実施していないか、常に話し合いケアを行っている。ご本人様のやりたい、やりたくないの意思をきちんと確認し、希望に添ったケアができるように努力している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	雰囲気作りをし、見た目も楽しく食事を頂けるようにしています。一人ひとりの咀嚼状況を把握し大きさ、硬さの調整をさせて頂いています。片付けなども出来ることはして頂いています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一人ひとり把握し確認しています。摂取量の少ない利用者様には好きな飲み物などを進めたり、体調に応じて食事形態を変更したりして対応しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをして頂いています。出来ない方はお手伝いさせて頂き、嚥下障害による誤嚥性肺炎の防止にも努めています。訪問歯科と連携をしており、口腔ケアや治療も受けられています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の状態に合わせてリハビリパンツ、パット、オムツの使用を検討し排泄チェック表を活かしてトイレ誘導や声掛けを行っています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をつけパターンをつかみ、個々の状態に応じて食事、水分、内服の調整等で便秘にならないように行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望に合わせて頂き、いつでも入れるようにしています。体調確認しながら支援しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活ができるように促していますが一人ひとりの身体状況、ペースを併せて休息できる環境にしています。日々状況の変化に対して観察し柔軟な対応をさせて頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効果、副作用をファイルに保管し職員がいつでも確認できるようにしています。手渡し、飲み残しのないようにしている。薬が変更になった場合は要観察としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみを提供し、職員も一緒に行い楽しみを共有してできる力を最大限に発揮できるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防対策の為、遠出の外出は中止しています。毎日近所への公園は密を回避し15分程度の散歩をしています。近所の方と挨拶を交わすことで地域との関わりを持つ機会となっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等でのトラブルをさける為遠慮して頂いている。必要であれば施設で立て替えをします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりや電話のやりとりは自由にできます。談話がかかってきた際は本人様にお繋ぎしゆっくりと会話して頂いています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙や飾りつけで季節感を出し、蛍光灯を暖色にして暖かみができる工夫をしていますリビングや居室で快適空間が保てるよう定期的に喚起、室温に注意しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のリビングにソファを設置し、入居者同士のコミュニケーションが取れるようにしてあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物やお好きな物を飾りを置いてあります。ベッドの下には埃がないように掃除をしっかりとらせて頂き、汚染物がないか確認し清潔を保っています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対策になっています。トイレ、浴槽には手すりがついています。トイレなどの大きく分かりやすいように案内表示をしています		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2390500102		
法人名	株式会社 プラス		
事業所名	グループホームあかり中村苑 せんりょうの実		
所在地	名古屋市中村区烏森町6丁目91番地		
自己評価作成日	令和5年9月15日	評価結果市町村受理日	令和6年2月6日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/21/index.php?action_kouhvu_detail_022_kani=true&JigvovsCd=2390500102-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 中部評価センター		
所在地	愛知県名古屋市長区左京山104番地 加福ビル左京山1F		
聞き取り調査日	令和5年11月9日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用様が安心して暮らしていけるように気持ちに寄り添い、その人らしさを引き出せるように職員間で、些細な事でも情報共有して支援しています。
 あかりの理念「あなたの笑顔がみたいから」に基づき歌声や笑い声が常に響いている家庭的な施設です。コロナ禍ですがご利用様とご家族様の関係が途切れることがないように予約制にて面会を行っています。またご家族様と信頼関係を深める為に全職員が困っているや求めている事を聞いて対応している。
 以前入居されていたご家族様からの口コミなどで入居希望の方が来られることがある

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員の入社はじめに、あかりの理念を伝え、地域密着サービスに対して施設の役割を説明し、玄関・事務所の掲示しています。基本理念を基に認知症介護理念を職員で作り全職員共有しています		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日頃より地域の方から声をかけて頂け、運営推進会議の際に地域行事等を教えて頂けます。あかりの夏祭りには近所の方や老人会・民生委員・町内会長さんにも来て頂けます		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の高齢者の方が気楽に相談等に来て頂けるように事務所に相談窓口を設けて、どなたにも笑顔で対応しています		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、コロナ禍で書面での報告をして、ご意見や質問、感想を頂いてます。町内会長さん、民生委員、いきいき支援センター担当者からご意見や要望等をサービスの向上に努めています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	中村区役所生活保護係担当者やいきいき支援センター担当者と連携を図りながら、利用者の受け入れを行っています。日頃から連絡・相談・確認を行うことで地域に根差した施設作りに努めています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束等の排除に関する研修を行い、年に4回身体拘束委員会を開催して勉強会を実施しています 身体拘束を行うリスクや身体拘束を必要としないケアをチームで知恵を出し合いケアの方法の改善に取り組んでいます		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	年に2回身体拘束等の排除に関する研修を行い、年に4回身体拘束委員会を開催しています。身体拘束を必要としないケアをチームで知恵を出し合いケアの方法の改善に取り組んでいます		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	年に2回虐待防止に関する研修、年に4回虐待防止委員会を開催して勉強会を実施しています。言葉遣いや態度等、職員同志で注意し合うようにしています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	権利擁護に関する勉強会を実施し、実際に利用されている方に説明したり、資料を基に学ぶ機会を作り理解を求めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用契約時に入居者様や家族様の不安が軽減できるよう、ケアに関する考え方や取り組み、利用料金等を同意して頂けるように丁寧に説明しています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度スタッフ会議を行い、意見及び提案を聞いています、また申し送りノートや直接管理者に伝えることもあります。意見など言いやすい環境作りに努めています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が向上心を持って働けるように支援し個別に話を聞き職員同士に人間関係を把握し働きやすい環境作りを目指しています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社初日には研修を実施しています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	いきいき支援センターとの交流でネットワーク作りや相互訪問等の活動を行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面談で生活状況を把握し本人さまの要望を傾聴し、生活のニーズを把握することで入居者様が不安にならないよう向き合いながら安心して頂ける関係作りに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面談を通して、ご家族様の今までの苦労や不安な気持ちをゆっくりと傾聴し、理解できるように心がけています。信頼関係が深まるよう些細なことでも電話や面会時に対応させて頂いています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族様や本人様からの相談に対してニーズの把握をするるとともに必要な支援の提案を行っています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族のような関係が築けるよう、一緒に過ごす時間を大切に、共に支え合い穏やかに生活ができる関係作りをしています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月状態を記載した写真を付けてお便りを送付しています。面会された際は日頃の様子をお話して安心して頂ける関係を築いています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	事前面談時に話し合い、大切にしてきた馴染みの場所や友人等の継続的な交流ができるように相談しながら対応しています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居間もない方には、特に職員が関りを多く持ち利用者様同士で関りが持てる様に職員が間に入り話の橋渡し役をしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居や事情で他の施設に行かれた方に対しても相談を受けてます。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	何気ない会話の中から、本人様の意向をお聞きし、できることがあれば実行している		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前面談時に生活歴、これまでの暮らしや地域との関り等の情報を得て把握しています。ご家族様からたくさんの情報を得ることで入居者様を理解し、その人らしい生活が出来るよう支援しています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の生活のリズムをつかみ、ご本人様がやりたい時に出来る事を行ってもらっている。認知症状が進行しても残存機能ができるだけ維持されるようにこえかけをして行っている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者様、ご家族様、計画作成担当者を中心に意見を出し合い介護計画を作成しています。月に一度スタッフとカンファレンスを行い意見交換し介護計画を作成しスタッフ全員が把握できるように努めている		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護日誌や介護記録、申し送りノートに普段と異なるや気づきを記載して職員間で情報共有しています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の日々変化する状況に応じて臨機応変に対応しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居様が安心して暮らしが続けられるよう、いきいき支援センター担当者や民生委員の方、地域役員の方と連携を図り意見交換し情報を共有することで支援につなげてます		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医により月2回の訪問診療を受けています。専門受診が必要と判断されればご家族様に説明して基本的に受診介助はご家族様にお願いしているが対応できない場合は職員が対応している		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	月1回の訪問看護により身体観察があります。入居様の健康管理をして頂き指示を受けている併設の小規模多機能型居宅介護事業所にも看護婦が勤務している為急変時等連携を図れる体制にあります		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は緊急の場合が多いので同行することが多く、医師や看護婦への対応を行っている。また退院時は病院の相談員と連携をとりながら退院後受け入れができる体制を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時、または必要と思われる方に重度化した場合や終末期になった場合についてご家族様と話し合いをし、安心して納得した最期がむかえられるよう取り組んでいます		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命センターで救急救命講習を受講した者が緊急対応マニュアルを元に勉強会を行い周知徹底を図っています。施設内にAEDの設置もしており職員に使用方法の説明をしています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回日勤、夜勤帯を設定で避難訓練を実施している。施設が災害時の避難場所となっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの尊厳を大切に誇りやプライバシーに配慮した言葉がけをするよう気を付けています。入社時に利用者様のプライバシーについて守秘義務を徹底するよう説明している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の性格等を知り、言葉の裏にかくされている事も感じとれるように、職員は出来る限りの時間を利用者様と過ごすようにしている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の性格等を知り、言葉の裏にかくされている事も感じとれるように、職員は出来る限りの時間を利用者様と過ごすようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の意見を無視したケアを実施していないか、常に話し合いケアを行っている。ご本人様のやりたい、やりたくないの意思をきちんと確認し、希望に添ったケアができるように努力している		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	雰囲気作りをし、見た目も楽しく食事を頂けるようにしています。一人ひとりの咀嚼状況を把握し大きさ、硬さの調整をさせて頂いています。片付けなども出来ることはして頂いています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は一人ひとり把握し確認しています。摂取量の少ない利用者様には好きな飲み物などを進めたり、体調に応じて食事形態を変更したりして対応しています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアをして頂いています。出来ない方はお手伝いさせて頂き、嚥下障害による誤嚥性肺炎の防止にも努めています。訪問歯科と連携をしており、口腔ケアや治療も受けられています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者様の状態に合わせてリハビリパンツ、パット、オムツの使用を検討し排泄チェック表を活かしてトイレ誘導や声掛けを行っています		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録をつけパターンをつかみ、個々の状態に応じて食事、水分、内服の調整等で便秘にならないように行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	本人様の希望に合わせて頂き、いつでも入れるようにしています。体調確認をしながら支援しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動的に生活ができるように促していますが一人ひとりの身体状況、ペースに合わせて休息できる環境にしています。日々状況の変化に対して観察し柔軟な対応をさせて頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方、効果、副作用をファイルに保管し職員がいつでも確認できるようにしています。手渡し、飲み残しのないようにしている。薬が変更になった場合は要観察としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人に合った楽しみを提供し、職員も一緒に行い楽しみを共有してできる力を最大限に発揮できるよう支援しています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナウイルス感染予防対策の為、遠出の外出は中止しています。毎日近所への公園は密を回避し15分程度の散歩をしています。近所の方と挨拶を交わすことで地域との関わりを持つ機会となっています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	紛失等でのトラブルをさける為遠慮して頂いている。必要であれば施設で立て替えをします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙のやりとりや電話のやりとりは自由にできます。談話がかかってきた際は本人様にお繋ぎしゆっくりと会話して頂いています		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	壁紙や飾りつけで季節感を出し、蛍光灯を暖色にして暖かみができる工夫をしていますリビングや居室で快適空間が保てるよう定期的に喚起、室温に注意しています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間のリビングにソファを設置し、入居者同士のコミュニケーションが取れるようにしてあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの物やお好きな物を飾りを置いてあります。ベッドの下には埃がないように掃除をしっかりとらせて頂き、汚染物がないか確認し清潔を保っています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対策になっています。トイレ、浴槽には手すりがついています。トイレなどの大きく分かりやすいように案内表示をしています		